

ジャパントイムズ賞

『『ちょっと』の処方箋』
コウ ショキ (黄 書達)
Mr. Huang Shukui
(中国・大学生)

私の名の「書」は本、「達」は道の意味で、「読書を通じて、自分の好きな道を開くように」との親の願いがこめられています。そのおかげで、読書が趣味ですが、スポーツやお遍路など身体をつかうことがもっと好きです。



『あの一すみません、今日はちょっと・・・』

これは私が日本語を勉強し始めた頃、会話の授業で聞いた言葉でした。友達を『今夜、一緒にカラオケに行こうか?』と誘う場面。『今日はちょっと・・・』と言うのがその返事でした。もちろん私の日本語が未熟だったせいもあるでしょう。しかし、この会話は行かない理由をはっきりと言っていないので、私は納得できませんでした。外国人、特に議論好きな中国人には「ちょっと」などと言われても、会話は成り立たず、全然分かりません。

ところで、なぜ私は理解も納得もできなかったのでしょうか。それは、私が「ちょっと」という言葉を「少しだけ」と誤解していたからです。

私はまず辞書で調べてみました。すると、当て字で「一寸(いっすん)」と書いてあり、私はなるほどと思いました。「ちょっと」を漢字で書けば「一寸」です。つまり、一寸イコール 3.3 センチ。

ちょっとは物の長さや時間の長さの両方を表すのだと分かりました。

それ以来、私は電話のやり取りなど色々な場面で日本人の会話に注意するようになっています。例えば、「ちょっと待ってください」の「ちょっと」なら、3.3 センチぐらいの長さの時間待てばいいんだ、と理解するようになりました。

日本人とのコミュニケーションの機会が増えるにつれて、私は日本人がこの「ちょっと」という言葉をよく使うことに気付きました。「ちょっと失礼します」、「ちょっとそこまで」、「ちょっと一杯」など、数えればきりがありません。この言葉は日本人の行動にも表れているようです。私は日本に来て、まず街や道路の狭さに「ちょっと」びっくりしました。しかし、狭い道路にたくさんの車や歩行者などが往来しているにもかかわらず、交通事故が少ないことにもびっくりしました。車、自転車、歩行者、みんながお互いに「ちょっと」の譲り合いで、交通が渋滞せずに、スムーズに流れていく、これこそ、一寸イコール 3.3 センチの譲り合いではないでしょうか。

話は変わりますが、小さいものと言えば、日本の精密な電気製品をすぐに連想します。小さくて性能が良いという点で、日本製品は世界のトップレベルにあります。逆に、大きいものと言えば、中国の万里の長城です。これをつくるには昔の中国人民は大変な苦勞を重ねました。もちろん日本人が小さい物を作るのもたいへんな苦勞が必要だと思います。日本製品は小型で精巧で、携帯に便利な物がたくさんあります。日本人はなぜ苦勞してでも小さい物を作ることに拘るのでしょ

うか。それは日本の企業がお客さんのことを一番に考えているからだと思います。お客さんの望む便利で精巧なものを作ること、「塵も積もれば山となる」というように、「3.3 センチのちょっと」ずつの工夫と改善の苦勞の積み重ねが、日本の今日の発展と繁榮を築き上げたのではないのでしょうか。

しかし、最近「ちょっと」の方向がおかしくなっているように感じます。子供や老人の虐待、学校や職場でのいじめ、またお年寄りを騙すオレオレ詐欺など悲しい事件が多くなりました。これは日本人が「ちょっと」した思いやりの心を失ってきているからではないのでしょうか。

みなさん、今、日本人は「思いやりの心」を失っていくのか、あるいは持ち続けるのかという大事な分かれ道に立っています。留学生の私はそんな気がしてならないのです。

「ちょっと」という言葉の素晴らしい処方箋のもとで、日本人の優しさ、譲り合い、気くばりの心が続いていくことを願っています。そうすれば、社会はもっと明るく平和で住みやすくなるでしょう。そして、私もこのちょっとした心遣いをしていくつもりです。

特に3月11日に起こった東北関東大震災。その衝撃と悲しみは測り知れず、毎日テレビやラジオ、インターネットで被災地の大変な状況を聞きながら、私たちにも何かできることはないでしょうかと考えました。今こそこの「ちょっと」の処方箋の効き目がある時です。私たちにできることは小さいかもしれませんが、沢山あると思います。情報に踊らされず、買占めを控え、節電を実行し、献血に行き、寄付を行うなど「ちょっと」した思いやりと「ちょっと」した協力ができます。

「みんなでやれば、大きな力になる」というように、もし私たちはこれから、もっとよく被災地の人々の立場に立って、今できることをやってあげれば、被災地の人々もきっと勇気を取り戻し、頑張っていけるでしょう。

みなさん、今私たちの愛が試されています。みんなで、一緒に愛を形に、行動に、そして祈りに変えていきたいと思います。ちょっとずつでも、千里の道も一歩からです。

私のスピーチも終わりの時間です。あ、ちょっと、もうちょっと！日本の皆さん、復興、頑張ってください！